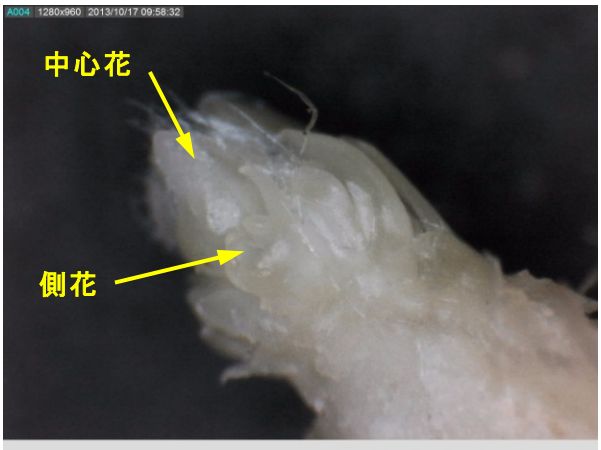
果樹の花芽

果樹試験場

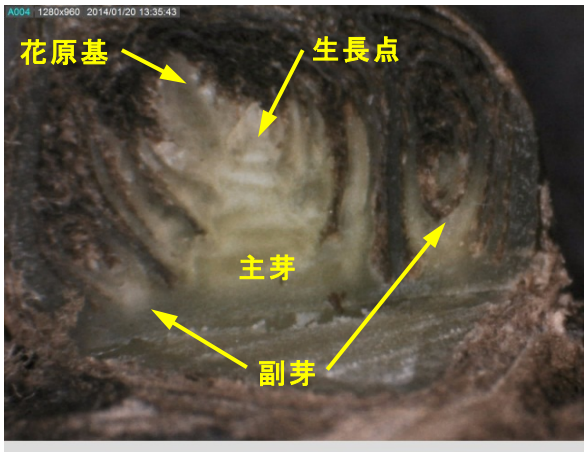
果樹は花が咲いて受粉することにより実をつけます。花を咲かせる芽は、花を咲かせない芽と区別して「花芽（はなめ）」と呼ばれ、栄養を十分に蓄えた良い花芽に良い実ができます。永年性作物である果樹は、一般に花を咲かせる前年の生育期間中に花芽を形成します。冬には新梢先端の頂芽や腋芽部分に花芽が形成されており、花の原基を顕微鏡で観察することができます。今回はリンゴとブドウの花芽について紹介します。

リンゴは春に萌芽した後、伸びた枝の先端に花を咲かせます。リンゴの花芽は着生位置から頂生花芽（ちょうせいかが）と呼ばれ、新梢の先端にできるため、新梢の伸長が停止してから形成されます。概ね８月以降に花の原基が形成され、顕微鏡で観察できるようになります。りん片を剥がし細長い形をした葉を除くと、葉とは異なる丸いふくらみ（＝花の原基）がみられます（写真左）。11 月頃には花芽が丸く大きくなり、その中には中心花だけでなく、いくつかの側花がみられ、花の中に「おしべ」も確認できるようになります。

ブドウの花芽は新梢の葉の付け根部分にできることから、側生花芽（そくせいかが）と呼ばれます。新梢の伸長とともに翌年の芽が形成され、主芽の両脇に副芽を形成します。通常、生育に問題がなければ、主芽だけが発芽しますが、なんらかの原因で副芽も発芽することがあります。冬季に芽を縦に切断すると、大きな主芽とその両脇の副芽がみられます（写真右）。花の原基は生長点より少し下の葉の間に形成されていて、新芽が伸長した後に、枝の基部から数節先に花が咲きます。



りんご「シナノスイート」の茎頂
（平成 25 年 10 月 17 日撮影）



ぶどう「巨峰」の芽
（平成 26 年 1 月 20 日撮影）

担当者	福田　勉	電話番号	０２６－２４６－２４１１

試験場だより・知って納得情報へ

果樹試験場ホームページへ